

平成30年度第1回千葉市下水道事業経営委員会議事録

1 開催日時：平成30年10月23日(火) 午前10時00分～12時00分

2 開催場所：千葉市議会棟3階第3委員会室

3 出席者

【委員】(五十音順)

泉委員
伊藤委員
工藤副委員長
小高委員
佐久間委員
佐藤委員
袖澤委員
瀧委員長
細川委員

【事務局】

出山建設局次長
岡本下水道管理部長
野村下水道建設部長
岩田下水道経営課長
古山下水道営業課長
西川下水道維持課長
桜井中央浄化センター所長
古山南部浄化センター所長
鎗田下水道計画課長
高梨雨水対策課長
森下水道整備課長
武田下水道整備課汚水対策担当課長
小川下水道施設建設課長
酒井下水道経営課長補佐

4 議題及び報告事項

(1) 議題

- ① 委員長及び副委員長の互選について
- ② 平成29年度千葉市下水道事業会計決算報告

(2) 報告事項

上下水道料金徴収一元化について

5 会議経過

(1) 議題

① 委員長及び副委員長の互選について

委員の互選により、瀧委員を委員長に、工藤委員を副委員長に選出した。

② 平成29年度千葉市下水道事業会計決算報告

【説明】 岩田下水道経営課長	＜資料1 平成29年度千葉市下水道事業会計決算報告＞ (説明「1事業の概況」～「4中長期経営計画の進捗状況」)
【質疑応答】 瀧委員長	財務に関する決算報告について、ご意見がありましたらお願いします。
佐藤委員	収益的収入の特別利益が予算額を大きく超えている理由は何ですか。
岩田下水道経営課長	特別利益とは、経常的に収益として計上されるものではなく、その年度限りの臨時的なもので、平成28年度以前の下水道使用料の過年度調定分が計上されたものです。
袖澤委員	念のため確認ですが、整備区域内人口と接続人口について説明をお願いします。
岩田下水道経営課長	整備区域内人口は公共下水道を整備した区域に居住している人口、接続人口は整備区域内人口のうち公共下水道に接続している人口をいまして、同数ではないので接続されていない方々もおられます。
細川委員	経費回収率が平成28年度と比べて大幅に上昇している要因を何ですか。
岩田下水道経営課長	経費回収率が過去の実績と比べて大幅に上昇したのは、平成29年度決算については、上下水道料金の徴収一元化を実施したことにより、下水道使用料の計上が通常12か月分のところ、1か月分多い13か月分を計上したためです。 下水道使用料を12か月分に換算して経費回収率を算出すると、実際には112パーセントで前年度と同程度になります。
佐藤委員	公営企業の会計決算は、会計年度によって前年度に行った事業などの影響を受けたりするものでしょうか。

岩田下水道経営課長

公営企業は毎年度議会の議決を経て成立した予算額の範囲内で事業を行っていますので、原則として前年度の影響を受けることはありません。

【説明】

鎗田下水道計画課長

<資料1 平成29年度千葉市下水道事業会計決算報告>
(説明「5平成29年度決算における重点事務事業」)

【質疑応答】

瀧委員長

事務事業に関する決算報告について、ご意見がありましたらお願いします。

泉委員

マンホールトイレの設置箇所数と今後の整備予定について説明をお願いします。

武田下水道整備課
汚水対策担当課長

マンホールトイレは、下水道の整備区域内において、平成20年度から整備を開始し、平成32年度までに118箇所のマンホールトイレの設置を目標としておりまして、平成29年度末時点で、58箇所設置しました。

下水道の整備区域外につきましては、防災部局等で3箇所設置しております。

今後の整備予定ですが、下水道部局では、これまで避難所に指定され、非常用井戸がある小中学校等を対象にマンホールトイレを設置してきましたが、これらの箇所は平成28年度で設置が完了しました。平成29年度からはプール水を利用するマンホールトイレの設置を開始したところです。

泉委員

非常用井戸がある小中学校等は事前に把握していると思われませんが、プール水を利用したマンホールトイレの設置をこれまで行ってこなかった理由は何でしょうか。

出山建設局次長

マンホールトイレは、当初、非常用井戸がある小中学校等に設置する計画で、プール水を利用したマンホールトイレの設置は予定していませんでしたが、東日本大震災や今後の地震発生確率を踏まえ、本市では、平成29年度から33年度までの5年間を計画期間とする千葉市下水道総合地震対策計画を策定しました。非常用井戸のある小中学校等へのマンホールトイレの設置は28年度で完了しましたので、本計画で29年度からプール水を利用したマンホールトイレの整備を推進していくこととしました。

<p>工藤副委員長 野村下水道建設部長</p>	<p>プール水は常時溜めておいているのですか。 火事などの災害対策のため、プールの清掃時以外は溜めて いることを確認済みです。</p>
<p>細川委員</p>	<p>処理場等の耐震化が6箇所中5箇所完了したとのことですが、施設のどの箇所が完了したのかということと、地震による津波や大雨による河川の氾濫などの大規模浸水時における施設の耐水化の状況はどうなっていますか。</p>
<p>小川下水道施設建設課長</p>	<p>処理場等の耐震化につきましては、平成32年度までの目標として6箇所の施設を耐震化することとしていますが、この箇所は主要ポンプ場の建築施設が5箇所、こちらは全て耐震化が完了し、残り1箇所は南部浄化センターの沈砂池機械室棟で、現在耐震化工事を進めているところです。</p>
<p>鎗田下水道計画課長</p>	<p>耐水化対策ですが、東京湾内湾における千葉県津波浸水予測図による津波の高さに対しては、浸水被害が発生する可能性は少ないと考えておりますが、電気室等の主要な施設については、一部耐水化を図っています。津波等の耐水化対策については、対象地震が見直しされたことから、今後の課題と考えています。</p>
<p>瀧委員長</p>	<p>東京湾内湾では3メートルから4メートルぐらいの予測ですが、もう少し高い津波が押し寄せるのではないかとこの予測もあると伺っています。その辺りはどうですか。</p>
<p>鎗田下水道計画課長</p>	<p>国等が発表する予測を踏まえて、関係機関と調整しながら耐震化計画等の見直しを行っていきたいと考えています。</p>
<p>細川委員</p>	<p>西日本豪雨では、岡山県や広島県などで河川が氾濫したことによる浸水被害で処理場やポンプ場の機能が停止してしまっただけで、相当数あったのですが、河川からの溢水による対策はされていますか。</p>
<p>鎗田下水道計画課長</p>	<p>本市では、河川や排水施設を現在も整備中ですが、平成29年に水防法等の一部が改正されたことを受けて、現在、本市と県の河川部局が連携をしてハザードマップ等の作成を行っているところです。そのハザードマップが示された段階で、必要に応じて、下水施設の具体的な浸水対策を講じていかなければならないと考えています。</p>
<p>袖澤委員</p>	<p>消化ガス発電の発電量と発電した電力はどのように利用されていますか。</p>

古山南部浄化センター所長	<p>消化ガスの発電機は200kw級2台設置しており、平成29年度の発電量は31万5,000キロワットでした。</p> <p>発電した電力は、南部浄化センターの所内で使用していません。</p>
瀧委員長	<p>売電はありますか。</p>
古山南部浄化センター所長	<p>電気料金等のコスト削減のため、全て南部浄化センターで使用することとしています。</p>
袖澤委員	<p>台風24号による塩害が各地で発生しましたが、その辺の対策はありますか。</p>
出山建設局次長	<p>若葉区と緑区の停電の影響で、いくつかのマンホールポンプの機能が停止してしまいましたので、自家発電装置を使って、マンホールポンプを稼働させていました。</p>
岡本下水道管理部長	<p>今回の停電の対応では自家発電装置が現場で不足していたことから、来年度に自家発電装置を購入するため、予算要求をしています。</p>
佐久間委員	<p>上水道や下水道など普段は当たり前のように使っていますが、最近は災害が多く、小中学生の若い頃から社会見学などを通して、公共施設の必要性を啓発していくのが大事ではないかなと感じます。</p>
小高委員	<p>マンホールトイレは見ることはできますか。</p>
野村下水道建設部長	<p>自治会や避難所運営委員会からご要望があった時などにマンホールトイレを設置してご覧いただいております。</p>
瀧委員長	<p>今回新しく委員になられた方もおりますので、現場視察等も兼ねてお願いします。</p>
岩田下水道経営課長	<p>以前、中央浄化センターと中央雨水ポンプ場を視察していただきました。また改めて施設の状況をご覧いただくため、浄化センターなどの現場視察を企画したいと考えています。</p>
瀧委員長	<p>近年は処理水量が増加傾向にあり、その対策のひとつとして、雨水を地下に浸透させるため、雨水浸透施設の整備を進めていると思われませんが、雨水浸透ますの効果はどうでしょうか。</p>
高梨雨水対策課長	<p>浸透ますを設置した際の検査で浸透量を確認しています。</p>
瀧委員長	<p>年間雨水量の何パーセントが浸透しているか等の検証をしていただきたいと思います。</p>
出山建設局次長	<p>国土交通省から出されている雨水管理総合計画策定ガイドライン等では浸透ますの効果検証は触れられておりませ</p>

んが、浸透施設は、管渠に流入する雨水の概ね2パーセント抑制し、雨天時放流量を低減できる効果がありますので、管渠の仕様も考慮して整備を進めているところです。

浸透ますは、年数が経過してくると、目詰まりなど浸透能力が低下してきますので、適切な維持管理をしていきたいと考えています。

瀧委員長

雨天時に処理水量が急激に増加することを防止するために、浸透ますなどでできるだけ雨水を地下に浸透させていかなければならないだろうと思いますので、しっかり進めていただきたいと思います。

佐藤委員

施策などの効果の評価や検証を行う体制、仕組みを構築することが必要ではないでしょうか。

瀧委員長

委員から出されたご意見等を踏まえ、事業の運営に当たっていただきたいと思います。

(2) 報告事項 上下水道料金徴収一元化について

【説明】

古山下水道営業課長

<資料2 上下水道料金徴収一元化について>
(説明)

【質疑応答】

意見等なし